

## 巡検・セミナー開催のご案内

### ◆今年度第1回のセミナー・巡検は11月11日(土)、土浦市立博物館で開催予定です

日時：平成29年11月11日(土) 9:30~

場所：土浦市立博物館・視聴覚室(予定)

講師：星埜由尚氏(当財団理事、元国土地理院長)

テーマ：近年の地図研究事情(仮)

巡検：昼食後、土浦市内を巡検します。

締切：10月27日(金) 午前中

電話、メール、Faxでお申し込み下さい。

平成29年度第1回セミナー・巡検は土浦市の土浦

市立博物館で開催(現在最終調整中)します。今回は星埜先生に琉球の地図などを含め、地図研究の課題や疑問について幅広いお話しを伺う会としたいと考えております。ぜひご参加下さい。

なお、土浦市立博物館と最終調整を行っておりますが、都合により会場の変更がある場合がございます。詳細は次回11月1日発行のICICニュースに掲載いたします。また当財団ホームページにも掲載致します。当日の朝9時頃、JR土浦駅に集合し、博物館まで十数分歩きます。午後の巡検ルートは行事委員会で検討中です。

## 展覧会情報

### 南蛮古地図企画展 絵画と地図で読み解く日欧交流

期間 8月5日~9月24日

会場 神戸市立博物館(神戸市)

電話 078-391-0035

### G空間EXPO 2017

期間 10月12日~14日

会場 日本科学未来館(江東区)

電話 03-3570-9151(ご来館について)

### ひろがる源氏 つながる古地図

期日 8月4日~11月5日(前後期あり)

場所 横浜美術館美術情報センター(横浜市)

電話 045-221-0300

### 昭和横浜の構想図・完成予想図

—過去に描いたココハマの未来—

期間 7月15日~9月10日

会場 横浜市史資料室(横浜市)

電話 045-251-3260

## mini地図NEWS

### ▶東京五輪に向け案内図記号追加、外国人の利便性考慮

経済産業省は20日、東京五輪・パラリンピックに向け、外国人観光客が一目で分かるような案内用の図記号15種類を新国内規格(JIS規格)として追加しました。旧来のデザインと併用を決めた新たな“温泉マーク”を含む図記号7種類も変更されます。現在の“♨”は外国人には「温かい料理を出す施設」と解釈されやすいという理由もあります。当初、検討されていた“祈祷室”は今回見送られました。

追加の15種類には、“無線LAN”や“充電コーナー”など。変更した記号は海外で一般的に使用されているデザイン(ISO規格)になっています。移行期間は2年を予定しています。(ニッカンスポーツほか、7月21日)。

この記号変更は案内用図記号規格(JIS Z 8210)の改正となります(日本規格協会)。

#### 図材等が変更となる図記号



救護所



ベビーケアルーム



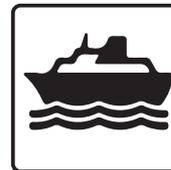
駐車場



乗り継ぎ



手荷物受取所



船舶/フェリー/港

#### 新しく追加される図記号



温泉  
(従来のマークも選択可)



無線LAN



充電コーナー

## 地図 絡み

### 第67回 敗戦後の1950～60年代、本州と九州を結ぶ急行で、途中の名古屋発着の、食堂車付増発列車の特色を知る方法

帝京大学理事 井口悦男

私の子供の頃、昭和10～20年代、第2次大戦前後には鉄道輸送大変動期にあたり、減少と増加との間を激しく行き来していた。中でも食堂車の連結は、選んだ時期により、『ゼイタクは敵』の認識が優等クラス寝台車と共に意識されていた時期でもあった。横須賀線電車の2等車も連結中止の事情を迎えた。ただしこの状況は、<sup>(現グリーン)</sup>僅かの間で海軍将校の反対で復活という現実に出会うが、当時食堂車は、それにしても駅弁から見て、高級指向であり、戦時下廃止方向時にあっても伝統的洋食中心で、それも一般販価に対し、2～3倍にあたり、通常学生利用価からは遠く、2～3人で一人前注文が適性というところであった。事実、乗り合わせた友人とで『とんかつ』1皿としたことを思い出す。恥ずかしい思いを味わった憶えはなかった。『つばめ』や『ふじ』など特急での定食時の予約満席、ビーフ・シチューを代表とするメニューのほか、目玉焼外の各種朝食メニューをはじめとして決して通常満席になるほど客席が埋められる賑わいは見られなかった。戦後、ほどなくほぼ戦前並みに営業域を拡大させていった。しかし、姫路から東海道、草津線、関西、参宮線經由伊勢市(旧宇治山田)鳥羽まで、伊勢神宮参拝客対象客路線は、北海道内釧路まで、旭川から網走まで(この区間に限り各停扱い)に対し、復活しなかった。利用客層の変化によるのか、あるいは進駐軍への対応によるのか。米軍対応と言え、1・2等対象列車として専用列車が急行扱いで国内代表線区で運行され、日本人の利用も後から認められるようになり、戦後の新規特殊急行列車状況を加えた。

戦前、戦後を通じ、長らく沼津で東海道線は、機関車交換地点であり、この5～10分の停車時分は、久し振りの西下の子供心最大の楽しみを迎えられた。希望の駅弁(うなぎか幕の内を先頭に、各種特定内容)は当然のこととして、三ツ矢サイダーかりボンシトロンに、安倍川餅にありつけることが、ワクワクだった。もちろん沼津に限らず、大船での富岡ハムのサンドウイッチ、そして鱈ずしもねらい所であった。安倍川餅と言え、駅売りに対し、静岡の街に構える安倍川(本物)脇の店売り品とは、餅そのものが全く別物で、つき立ての餅にあんこと砂糖や香ばしいキナ粉に、究めつきわさび(本物)に醤油をたらしたりしたものと言うぐあいであり、こちらを余裕ある時、味わえるよう心掛けた。特殊な味わいでは、一度のこ



二重屋根食堂車(写真はマシ29型)。©奥野利夫氏、撮影:京都駅1964年(ホームページ:国鉄型車両ファイルより)。

とであったが、東京に帰る折、各駅停車利用となつてのこと、どこであったか忘れたが、そのおかげで、漬物弁当にありつけた。現在果たして販売されているかどうか。漬物各種だけ盛りこまれた単純な品数の小型弁当の変わり種であった。なお当時、大阪～東京間、昼行、夜行を含め5、6往復、関門海峡開通後九州～東京間数往復運用されていたが、現在新幹線列車の運行系統、そのスピードから考えられる行先とは、掛けはなれて、当時の時刻表に当たって驚かされること必條である。

これに関連させて、第2次大戦後の列車復活期にあたる1950～60年代に途中折返し系統として、名古屋着発九州間急行があった。東京発着に続くのは、それ迄、大阪発着が山陽經由の定番とされていたことからすれば、戦後の新たなサービス向上と言えた。この種増強サービス列車を見分けるのには、従来から存在し、戦時下姿を消していた列車群と相違する車両の組込みに注目する所にあった。増発する列車を構成するのに、車両数の限られた種類は一般的な座席車の「ハ」ではなかった。この種は客車中一番、数の多いものであった。その一方、急行用で特殊車中特殊仕様すぎる展望車とか1等車でもなく、それはある程度両数が必要とされる食堂車となる。1形式として少数製造されるためか、使用開始年代差とともに、耐用年数内での利用線区差が判明しやすい車種にあたる。事実、新設名古屋着発急行では、組み込まれた1両の食堂車のみ二重屋根車で、その前後の座席車の丸屋根続きとそこだけ異形式なのが、遠目にも目立っていた。すでに丸屋根形式食堂車は竣工し、最新式であったから、二重屋根車は旧形式に属していた。と言っても昭和初期製造の現用車のうちで、ただ2級仕様車と格下げ扱いになっていたに過ぎない。この新設急行に組込める食堂車に適當する食堂車には二重屋根様式車しか存在してなかった結果にすぎないが、追加急行の産まれを表示する。東北線用食堂車は二重屋根車を更新して丸屋根に改造し運用している。使用効率の高かった車種であったことを物語る。

(2017.7.17)